

釧路・根室の簡易軌道「鉄道友の会島秀雄記念優秀著作賞」を受賞

石川 孝織*

当館では2014年度から釧路・根室地域における簡易軌道（殖民軌道）についての調査を開始、2016年1月にプレ講演会、また同年10月から翌年1月にかけて企画展「釧路・根室の簡易軌道」とその関連行事として講演会・上映会・見学会などを開催し、釧路各地域や東京・札幌などの巡回展も含めて好評を得ました。

鶴居・標茶・浜中・別海の各町村・教育委員会、釧路開発建設部、また全国の鉄道研究愛好家の皆様などのご協力により、準備段階や開催後に収集できた資料や写真、調査結果をまとめ記録集として刊行、販売を行いました。2,300部が4ヶ月で完売しました。さらに2018年1～2月にはNHK釧路放送局と「映像でよみがえる簡易軌道と道東開拓のあゆみ」を開催、11月にはこれら4ヵ年の取り組みの成果をもとに常設展示室2階に簡易軌道コーナーを設置、記録集も増補改訂版として再刊しました。

2017年11月には企画展と記録集の刊行について「第8回鉄道史学会 住田奨励賞特別賞の部」を受賞しましたが、加えてこのたび記録集の出版に対して、鉄道友の会（須田寛会長・会員約3,000人）より「2018年島秀雄記念優秀著作賞 特別部門」をいただくこととなりました。賞の概要および選定理由は下記の

通りです。なおダブル受賞は史上初とのこと。

2018年11月26日に東京・私学会館で行われた贈呈式には担当学芸員である石川孝織が出席、同会須田会長より表彰状と記念盾を受け取りました。

なお簡易軌道はこの直前の11月1日、「北海道の簡易軌道～次世代に伝える開拓遺産としての鉄路～」として北海道遺産にも選定されました。申請を行った鶴居村は他に先行する形で積極的な活用を目指しており、全道規模への広がりも期待されることです。当館はこれまでの学術的な蓄積を活かし、常設展示や記録集を通じ教育普及活動を継続して行い、あわせて鶴居村を含めた全道関係自治体との研究連携を図っていききたいと考えています。



同賞の受賞者（前列左2番目が著者）
写真提供：鉄道友の会

【賞の概要】

島秀雄記念優秀著作賞は、毎年1回、鉄道分野に関する優れた著作物または著作物に関わる功績を選定し、鉄道および鉄道文化の発展に寄与することを目的として、2008年に新設された賞です。

賞の名称は、鉄道友の会初代会長・島秀雄氏（1901～1998）が会の発展に尽くされた功績を永久に記念し、後進にとって励みとなる賞にするため、ご遺族の了解をいただいて、そのお名前を冠することとしたものです。

【選定理由】

(3) 特別部門「釧路・根室の簡易軌道」（釧路市立博物館）の出版に対して

本書は、釧路市立博物館の企画展の内容をまと

めた図録で、従来体系化された資料が少なかった簡易軌道について、地元自治体に保存される資料や写真の掘り起こしをはじめ、各鉄道の職員だった人たちや沿線利用者の体験談や記録写真の数々も加わり、簡易軌道をまとめた書籍として充実した内容となっています。また、地元の利を生きつつ、全国的な鉄道趣味者のネットワークを活用するなど、編著者の果たした役割も高く評価できます。シンプルな構成ながら、網羅性が意識されているほか、鉄道趣味者の記録や成果をうまく取り入れており、島秀雄記念優秀著作賞特別賞にふさわしい業績として選定しました。

（鉄道友の会資料より引用）